

背景

五島市における定置漁業は、一般漁業（まき網を除く）の水揚量4,729 t（※）の約46%（2,146 t）を占める基幹漁業であり、雇用の受皿としても大切な役割を担っている。

近年、資源減少、魚価安、燃油・資材高騰による事業利益の低下が進む中、経営改善を図るため、生産性の向上や多角的経営による事業収入向上、また経費削減の展開が求められている。

※H27農林水産統計

課題

1. 水揚量の減少

- ・ 漁具の構造による中層遊泳魚の逸散
- ・ 漁網の劣化による漁獲能力の低下

2. 魚価対策

- ・ 蓄養筏の台数不足による活魚の品質低下（スレ等）
- ・ 活魚出荷量の限界

3. 経費率が高い

- ・ 漁網等の補修費
- ・ 漁船の保守管理費
- ・ 人件費 等の割合が高い

4. 地域との連携

- ・ 定置網漁業等を活用した地域振興と多角経営

5. 労働力の不足

- ・ 長期雇用を確保できない労働環境
- ・ 操業・網替え作業への支障



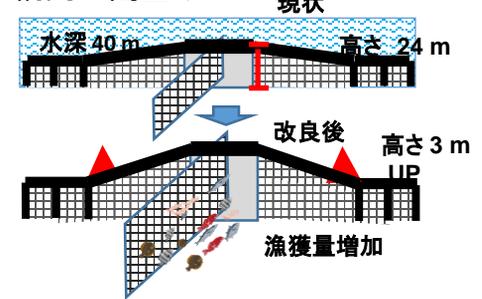
取組の方向性

「来遊資源を適宜・持続的に獲り、魚価を高める活魚出荷の拡大」をコンセプトに、経費も削減し、さらに観光定置等による多角経営を実践する、定置漁業の経営モデルを確立する。

計画内容

- ① 定置網の改良
 - ・ 運動場の網高の嵩上げや箱網の容積拡大
 - 水揚量の5%増加
- ② 活魚出荷の強化
 - 筏増設によるブリ等の出荷量3トン増加
- ③ 漁網の整備による補修作業日数の削減と経費節減
 - 年間操業日数の17日（10%）増加
 - 消耗品費の10%削減
- ④ 観光定置や筏釣り体験の導入
 - H29年120名
 - ~H31年172名の呼び込み
- ⑤ 雇用の確保・改善
 - 豊漁時の特別手当の支給
 - 長期雇用者の2名増員

網高の嵩上げ



観光定置・筏釣り体験



～ 地域を牽引するビジネスモデルへ ～

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 労働環境改善と雇用の確保

KPI (重要成果指標)

	基準年 (直近3年平均)	H31 (目標年)
○付加生産額 (営業利益・人件費・減価償却費)	13,401 千円	→ 17,983 千円
○雇用者数	5 人	→ 7 人